

大志を育む



令和5年5月25日
(教職員向け)
教育委員会だより
No. 52

発行：北広島市教育委員会

改訂「きたひろ夢ノート」で確実な大志学を!!

学校教育課 指導主事 比良 彰男

すでに全児童・生徒に配布されていることと思いますが、今年度「きたひろ夢ノート」が7年ぶりに改訂されました。

「大志をいだき学ぶまち・きたひろしま」は、北広島市開拓期にゆかりのある偉大な先人、W.S.クラーク博士、和田郁次郎翁、中山久蔵翁の3人が伝える「懐く」「励む」「挑む」の精神を人材育成のキーワードとして、「これからの人づくり」の視点としています。

そして、平成30年度に北広島市一斉に始まった小中一貫教育の「大志学(キャリア教育)」では、子どもたち一人ひとりの社会的自立に向けた能力や態度の育成のための取組が展開されてきました。その中で、文科省のキャリアパスポートに当たる北広島市独自の「きたひろ夢ノート」を、平成28年度から全小中学校で使用して、学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活の意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を記録し、「一人ひとりのキャリア形成と自己実現」の育成を図ってきました。

今回、「きたひろ夢ノート」の改訂では、低学年用(小1～小4)、高学年中学生用(小5～中3)を分冊にするとともに、使用学年を小中学校全学年に広げました。各学校におかれましては、中学校区での9年間の大志学(キャリア教育)の取組を通して、子どもたちが自信をもって夢を膨らませることができるよう指導の充実を図っていただきたいと思います。

大志学を小中一貫教育に位置づけ、各中学校区で児童生徒の実態に応じた学習を構築し、9年間の発達段階を踏まえながら、子どもたちに身につけさせたい能力や態度を明確にし、取組の充実を図っていくことが重要です。



改訂された「きたひろ夢ノート」



「きたひろ夢ノート
活用ガイド」

今回、「きたひろ夢ノート」の改訂に伴って、市教委と北広島教育研究会で、「きたひろ夢ノート活用ガイド」を作成しました。学校の研修等で目を通したことと思いますが、児童生徒に「いつ、どこで、どのようなことを書かせていくのか?」各学年のページの指導に当たっては、学校内で全教職員が共有して取り組むことが大切になります。また、今後学校で年間指導計画を作成することになりますが、学年・学級間で取組に差がでることのないよう、全ての児童生徒が確実に取り組む体制の構築に当たっていただきたいと思います。

また、三人の先人のことや私たちのふるさと「北広島市」、夢チャレンジ、SDGs等に関するページについても、学年の発達段階に応じ、適時取り上げて指導するよう心掛けていただきたいと思います。

保護者、先生からの記入欄は、児童生徒の記述に寄り添い、努力や頑張りを認め、励ますことで自己肯定感の高まりにつなげることになります。

家庭環境に配慮しつつ、家庭からのコメント記入のはたらきかけを行うとともに、先生からは、1年間の成長を認め、児童生徒が夢や希望を持って、さらに頑張っていけるような励ましの言葉に心がけ、児童生徒の成長につなげていっていただきたいと思います。

東部中学校区

小中一貫教育の取り組み

東部中学校区では「小中一貫教育で目指す子ども像」と「育成すべき資質・能力」を設定して小中の接続を図るように取り組んでいます。

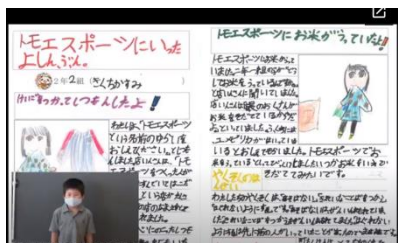
「持続可能な授業づくり」をテーマに、道徳の同一教材の実践や小小連携事業・小中合同学習を毎年、同様な内容で進めています。今回は、「小小連携事業」と「乗り入れ授業」を中心に紹介いたします。

【小小連携事業について】

小中一貫教育では、「小と中」の接続だけに重点を置くのではなく、「小と小」のつながりにも力を入れています。この取組は「中一ギャップ解消」に向けても重要な橋渡しになると考えています。本中学校区では、2年生と3年生で連携事業を行っています。その取組を紹介します。

2年生の生活科では、地域の人々と関わったことをふり返り、自分の心に残った出来事を、お互いの学校で紹介し合う動画を作成（左の写真）し、交流を深めています。各学校で活動が完結することなく、お互いに紹介する活動を通して、地域の良さや愛着を深めることにつながっています。

3年生では、校区内を流れる「輪厚（わつつ）川」や、自然豊かな「レクの森」に生息する生き物を中心に自然にふれあう活動を毎年行っています。コロナ禍においてはリモート（中央の写真）で交流を深めるなど、状況に合わせた交流活動に取り組んでいます。昨年度は、2小合同で「レクの森の自然観察会」（右の写真）を行いました。お互いに打ち解けあう様子がすぐに見られました。



【乗り入れ授業について】

本中学校区では、東部中学校の専科教諭が東部小学校・北の台小学校の6年生4クラスで乗り入れ授業を行っています。昨年度までは「社会科」と「家庭科」、今年度から「算数科」で行っています。小学校にとっては、「専科教諭による質の高い授業を受けられること」、「中学校進学イメージを持つこと」が大きなメリットとなっています。一方、中学校にとっては「小学校の様子を知ることができること」「小中9年間の系統性を意識した学習を進められること」がメリットとなっています。

「とてもわかりやすく、社会科が好きになった」「中学校の学習スピードを知ることができた」など1年間授業を受けた児童の感想から、乗り入れ授業の効果はとても大きいと感じています。

中学校に掛かる負担が大きいという課題はあるものの、Google 共有ドライブを活用した3校での時間割調整など、連絡を密に取りながら工夫して取り組んでいます。

